

シベリアの俳句

1940年代、シベリアの強制収容所。

ソ連軍によって占領地から強制移送された少年は、短く美しい日本の「詩」に出会う。大冒険に憧れる13歳に少年アルギスが辿り着いたのは、極寒のシベリア。それは、長く厳しい「はなればなれの旅」だった一極寒の流刑地で、少年は何を見たか？

実話を元に描かれた、リトアニア発のグラフィックノベル。



【講師プロフィール】

(文) ユルガ・ヴィレ

1977年、ヴィリニウス（リトアニア）生まれ。

ヴィリニウス大学でフランス語学、ソルボンヌ大学で映画学を専攻。2017年、本作「シベリアの俳句」で作家デビュー、同作で国内外の賞を多数受賞した。

(絵) リナ板垣

1979年生まれ。

国際基督教大学経済学部、および、ヴィリニウス芸術アカデミーのグラフィック・アート学部にて学位を取得。イラストレーター、コミック・アーティスト。2017年、本作「シベリアの俳句」で単行本デビュー。同作で国内外の賞を多数受賞した。

(訳) 木村 文

1993年、東京生まれ。

リトアニア政府奨学生としてリトアニア国立教育大学に留学。2018年4月より、お茶の水女子大学生活工学共同専攻後期博士課程に在籍。博物館研究者。

これまで、4種類の訳書を平塚市に寄贈。

- ・「あさはやくに」（2020年）
- ・「リトアニアの詩の絵本『ちいさな ちいさな』」（2021年）
- ・「へびの王妃エグレ」（2022年）
- ・「シベリアの俳句」（2022年）



ユルガ・ヴィレ氏（左） リナ板垣氏（右）



木村文氏